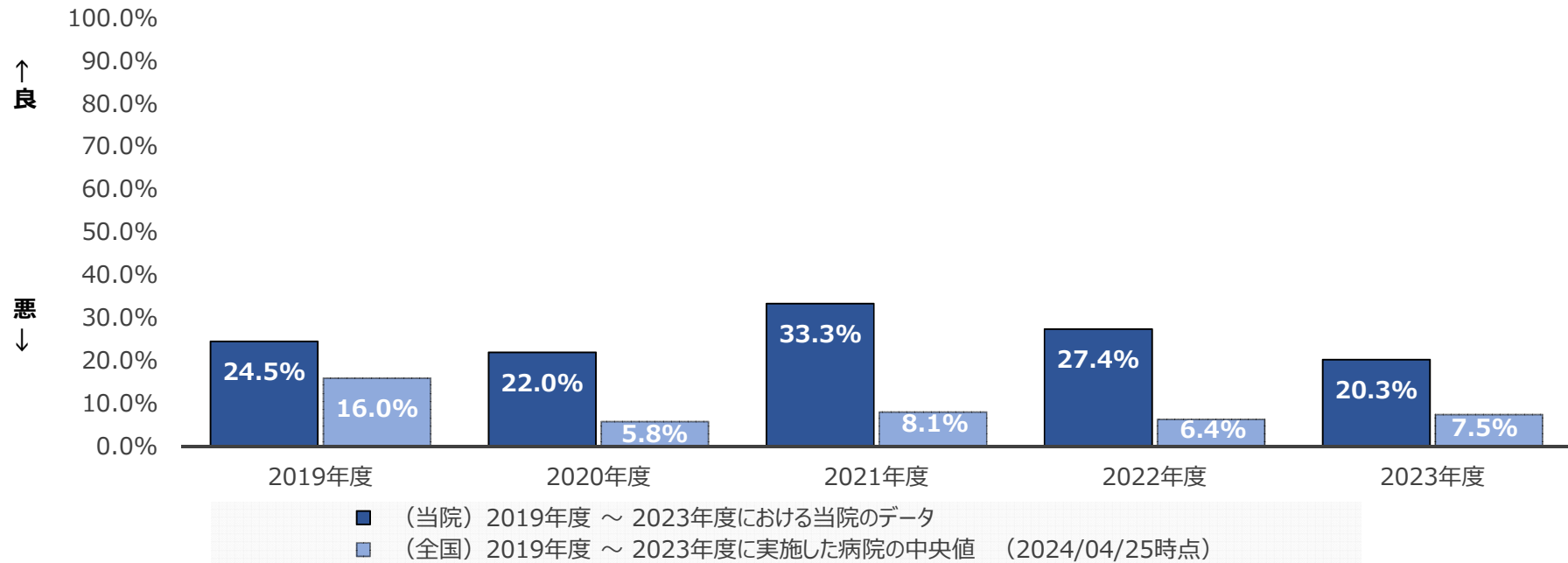


【21】誤嚥性肺炎、摂食指導実施率



<定義>

$$\frac{\text{(分子) 分母のうち、摂食機能療法が実施された患者数}}{\text{(分母) 誤嚥性肺炎の退院患者数}}$$

<コメント>

食物や唾液などを気管、肺などに誤って飲み込むことを誤嚥といい、加齢や脳卒中後遺症などで多くみられます。現にある機能を生かしたり、食事内容を工夫することにより、誤嚥に至る率を抑えることが誤嚥性肺炎を避ける方法の一つです。病状により指導内容は異なりますが、今回の仕様では診療報酬請求上で該当する指導の率をみています。高齢患者の増加により、誤嚥性肺炎は今後も増加することが予測されるので、当院ではTQM活動の一環として言語聴覚士、看護師、栄養部を中心に嚥下指導マニュアルが作成され、誤嚥性肺炎の改善に取り組んでおりますが、2018、2019年度は調査参加病院の中央値レベルでした。2023年の調査参加病院の中央値は2022年と変わりありませんが、当院の比率は高いながらも低下傾向です。

TQM：組織全体で医療やサービスの質を継続的に向上させるための管理手法